

① 篠塚良雄さんへ

こんにちは。私は戦争について、断片的な知識しかない高校生です。長い間活動を続けていた、反戦運動家のあなたの証言を読み、私はあなたについて深く知りたと思いました。それは、知れば知るほど怖いものでした。自分の気持ちを率直に言ってしまうと、私はどんな理由でさえ、殺人に加担したようなあなたを許せません。ごめんなさい。私には七三一部隊で活動したあなたの気持ちを、少ししか考えられません。間違えているかも知れません。だから、簡単にこんな事を言って良い立場ではないと思います。どれだけ学んでも、戦争の本当の怖さは経験していない私には到底理解出来ないのでしょうか。それでも私はあなたと七三一部隊を許しません。あなた達の行った人体実験を正しい行いだと思ったことはありますか。「マルタ」という名で軽く扱われた捕虜の気持ちを一度は考えましたか。私は少し考えただけで怖くて苦しくなりました。自分の死を覚悟しながら明日も生きられることを願うなんて、そんなの悲し過ぎます。私がマルタなら、何故生きているのだろう、何のために生まれてきたのだろうと毎日毎日考えるとします。あなたはどうか。篠塚さんの証言を読む限り、私にはあなたが七三一部隊のことを良く思っていないように見て取れました。あなたは過去に自分が志願した事を後悔していますか。もし、志願した15歳の自分に会えるなら、入隊をとめますか。

篠原さんの活動経歴を知りました。私はあなたに「有難う」と言いたいです。七三一部隊にいる時も、そうでない時も、辛かったり苦しいことがたくさんあったはずなのに、その知識を生かし、反戦運動をしたあなたを尊敬します。あなたのように自分の罪を認め、どのような思い出も背負って生かしていける人間になりたいです。篠塚さんが残してくれたものが、これから先も平和に繋がっていきますように。

2003年生まれ、16歳、東京純心女子高等学校1年

② 篠塚良雄さんへ

私は篠塚さんの証言を読むまで七三一部隊のことは全く知りませんでした。初めて読んだ時に、恐ろしく残酷な部隊という印象を持ちました。

ところで、戦時中の日本では上の人間の言うことに従わなければならないという軍国主義的な教えを説いていたそうですね。その教育は、いつの日にか考えることを忘れ、物事の善悪がつかなくなってしまうでしょう。怖い話です。

篠塚さんは、初めて生体解剖に立ち合った時の話を証言でおっしゃっていましたね。民族的な優越感を持っていたということは、教育が影響しているのでしょうか。当時は日本人が中国人よりも優れていると考えられていたそうですね。そしてそのことを子供に教える。教育は思想や人格を作るものだといいますね。

七三一部隊は中国人など外国人を人間と見ず、人体実験を行ったり、殺したりしました。戦後には子供まで証拠隠滅のために殺し、骨は川に捨てました。それは残酷で恐ろしいことの他ありません。しかし、戦後に証拠隠滅され、歴史の教科書にも載っていない、七三一部隊のことを専門的に調べなければ知ることが困難で、私たち日本人の大半が七三一部隊について知らないことが、一番怖いと思いました。

戦争はやるべきではない、軍隊は持つべきではないという篠塚さんの意見には大賛成です。私たち日本人は、敗戦国という事実だけにしか目を向けていません。日本軍が戦争中に行ってきた七三一部隊の事などからは、目を背けるどころか隠蔽されている事柄も多いです。平和が脅かされそうになる今だからこそ、過去の過ちと向き合うことが大事だと思いました。

2003年生まれ、16歳、東京純心女子高等学校1年

③ 篠塚良雄さんへ

見えない景色

こんにちは。私はその辺にいる高校生です。私は年齢こそ近けれど、当時の篠塚さんは全然違う環境で生活を送っています。たった数十年前には、同じ日本でもきっと目を背けたくなる凄惨な光景も沢山あったことでしょう。今はそれもほぼ跡形もなく消え去り、こうして文章や映像、あとは辛うじて数少ない戦争経験者の口伝てからでなければ、そのことを知る由も無くなってしまふ、そんな時代になりました。

貴方の文を読み、私が一番に感じたことは、人の脆さです。この脆さとは精神的な脆さのことです。私は戦地へと赴いた兵士さんに限らず、そこに生きていた人々はきっと周りのお国のためという同調圧力と、嘘混じりのメディアに、ある種の国単位での洗脳を受けていたのではと思わざるを得ないのです。でないと戦時中の人々の行動に辻褄が合いません。

こういったことは、時代が時代だったからで、どこか他人事に見られる風潮がありますが、私はそうではないと考えています。なぜなら今も表面は違えど、同調圧力やデマ、フェイクニュース等に人々が翻弄されるなんて話は絶えませんから。それに今の私達も気付いていないだけで、未来には同じようなことを言われている可能性も否めません。そう考えると、先程全然違うだなんて言いましたが、そういった側面はあまり変わっていないのかもしれない。

貴方も書いている通り、私も周りの環境が変わらなかつたら、貴方自身の行いについて真実を知ることは出来なかつたと思います。私はこのように、人が経験と周りの環境からでしか物事を考えられない所に、精神的な脆さを感じてしまうのです。しかし同時に過去を振り返り、前進すべきだとも思います。例えば貴方の文を読み、私は狭い視野でしか目の前の景色を見られないと、そのことに気づけただけでも、また一歩前に進めたような気がします。

2004年生まれ、16歳、東京純心女子高等学校1年

④ 篠塚良雄さんへ

篠塚さん、こんにちは。私は16歳の高校1年生です。私は戦争を体験していません。篠塚さんの証言を読んで、当時私と同じくらいの年の人がこんなにも壮絶な体験をしたのだと、胸を締めつけられるような思いです。七三一部隊については以前から知っていたのですが、この証言からは、資料を見るだけでは感じられない生々しさを感じました。

篠塚さんは証言のなかで、「言われればそのまま何も聞かないでやるというのが習慣づけられていました。」とおっしゃっていますね。私はこの部分を読んで、このように考えることを麻痺させてしまうことが、戦争につながっていくのかもしれないと思いました。国民の命はオオトリの羽より軽いなんて言われたら、普通の感覚の人だったら怒るでしょう。でもそんな事を言えないような雰囲気や、それを普通だと思ふ感覚を子供達に持たせてしまった、当時の日本の教育は恐ろしいと感じました。また、一度身につけた習慣や道徳観を覆すことは、そう簡単ではないでしょう。戦後、自分のしてしまった事を客観的に振り返るのは、とても辛いことだったのではないのでしょうか。それを、自分のしてきたことは間違いだったと気づいて認め、これまでの自分の罪を償おうとすることができる篠塚さんは強いと思いました。

篠塚さんの文章を読んで、戦争の怖いところは、皆が考えることをやめてしまうことなのだと思います。私も、戦争は絶対にしてはいけないと思っています。そのためには、何かおかしいと思ったらすぐに声をあげていくべきだと思います。これからの日本をつくる世代として、もう2度とこんな悲劇が起きないように、未来に戦争のことを伝え、考えつづけていきたいです。

2004年生まれ、16歳、東京純心女子高等学校1年

⑤

私は戦争体験者である篠塚さんの証言を読んで、人を生きたまま生体実験し、生体解剖して命を奪っていたというできごとが印象に残りました。当時から国際条約で細菌と毒ガスの武器使用は禁止されたいというのに、それを承知した上での生体解剖、中国の人を大量殺害、戦争は多くの人を命を奪い苦痛を味あわせる世界で最も怖いできごとだと思いました。もし自分が篠塚さんの立場だったら、きっと恐怖で怯える毎日だと思います。

しかし、これは軍国主義的な教育を受けていない側としての意見です。きっと軍国主義的な教育を受けていて、上官の命令は絶対守らなければいけないと言われていたら、このできごとを当たり前だと感じて私の意見も変わってしまうかもしれません。

私が証言の中で共感できると思った言葉は、「今、平和を壊す必要がどこにありますか。」という一言です。現在、世の中で問題となっている新型コロナウイルス感染症。コロナウイルスは戦争の時のように多くの人を苦しめています。世の中がこのような状態だと平和どころかどんどん平和が遠ざかっているように私は感じています。正直、私はこの先も当たり前の日常が続くと思っていました。コロナウイルスによって一瞬で当たり前の日常が奪われた。まるで、戦争が起こっているときのようなようです。私も篠塚さんのようになぜ平和を壊すようなことをするのだろうかと感じています。しかし、今の世の中では医者が存在し薬もあります。昔に比べて今がどれだけ良い方向へと進んでいるのか思い知らされます。これから先、どんどん世の中は変化していきますが、それと同時に戦争や原爆で苦しめられてきた証言者も減少していきます。そんな今、私ができることは証言者の話に耳を傾け、これからもっと多くの人に語り継いでいかなければいけないと思いました。

2003 年生まれ、16 歳、純心女子高等学校 1 年（長崎）

⑥

私は篠塚さんの手記を読んで戦争について色々考えました。

私の故郷であるハルピンでこのようなできごとがあったことは、中国では多くの人に知られているが、日本ではほとんど知られていない気がします。その上、このような歴史を認めない人もいて、とても悲しく感じます。前から知っていても、初めて篠塚さんの手記を見たときは涙が出ました。文字だけ見ても驚く人体実験の残忍さを当時の被害者たちは実際に感じていたと考えると、どれほどの苦痛と絶望だったのか想像もできません。

しかし、当時の篠塚さんは小さい頃からの教育とそれによる民族優越感が故に、このようなことをとても軽く思っていたのを読んでショックと怒りを感じました。教育が人の考え方に与える影響の大きさを改めて感じました。

当時の篠塚さんだけで無く、今でも戦争や歴史を軽く見ていたりする人がいます。例えば、世界的に大ヒットしたアニメ「僕のヒーローアカデミア」の中の「志賀丸太」という悪役の名前が七三一部隊の事件を暗示した疑いで問題になりました。しかし、SNSなどでは無関心もしくは過激に否定的な態度を示すコメントがたくさんありました。このようなコメントをした人たちは、歴史への尊重よりも自分の趣味や利益を優先に考えたと思います。平和を守るために、こういう無関心な態度と考え方は良くないと私は思います。

戦争がこれから起こらないために、平和が実現し続けるために、戦争への正しい認識を持つ教育と他者への尊重、自分と異なる文化や民族性などへの理解、そして歴史を大切にし、戦争の悲惨さを教訓として忘れないことが大事だと思います。

2004 年生まれ、16 歳、純心女子高等学校 1 年（長崎）

⑦

はじめまして。私は今、篠塚さんが証言したことを読みました。読んでいるときその場面が想像できてとても怖かったですし、鳥肌が立ちました。また、当時日本がしたことショックを受けました。人間を生きのまま解剖する。このようなことを日本人がしていたことは本当に悲しかったです。篠塚さんはこの「七三一部隊」には友だちに誘われたこと、人を殺さないだろうと思ったこと、大学に行けることが理由で入ったと読みました。実際にこの部隊に入り「悪魔の部隊」と知り、目の前で人が生きのまま解剖されているのを見た。私にはとても耐えられません。悲しくて、今すぐに逃げ出したいなと思います。想像するだけでこんなに恐ろしく、怖いのに、実際に体験した篠塚さんはどんなに怖くて恐ろしかったかと思います。しかも十五歳から二十歳までずっとこんな体験をしていたんですよ。本当に私には無理です。

私が篠塚さんの証言を読んで一番悲しかったことは、証拠隠滅をしたことです。証拠隠滅のためにまた人を殺し、小さい子どもまでを殺したことです。そして、悪いことをしたのにそれを隠したことです。これはとても悲しかったです。

私は篠塚さんの証言を読んで気づいたことがたくさんありました。まず、戦争は何もかもダメにするということです。戦争のせいで人は人を簡単に殺してしまう。戦争のせいで正しい判断ができなくなる。戦争のせいで命の大切さを忘れてしまう。戦争のせいで何もかもがダメになるんだと気づかされました。もう二度とこのようなことが起こらないように、当時のことについて知り、戦争について知り、平和のためにできることは何かを考えることが大切だと私は思います。たくさんの犠牲者を出し、戦争の悲惨さを知った日本だからこそ、平和のために頑張らないといけないと思います。

2003 年生まれ、16 歳、純心女子高等学校 1 年（長崎）

⑧

篠塚良雄さんの証言を読んで、改めて命がどれだけ大切なものか、今がどれだけ平和であるかを感じさせられました。

生体解剖された人たちのことを篠塚さんが気楽な感じで「マルタ」と呼んでいて、彼らのことを人間として見ていなかったというのを読んでとても衝撃を受けました。人間のことを「マルタ」と呼んでいたことにももちろん驚きましたが、それを気楽に言うってしまうほど人間が殺されるのが当たり前でその辺に死体が転がっているのも当たり前になってしまっていると考えると、やはり戦争はとても恐ろしいと思いました。また、その頃は上の人の命令には絶対に従わなければいけなかったということも知り、今の私たちは本当に自由に発言したり行動したりできているのだと感じました。戦争中はそれが当たり前だったかも知れないけれど、今、上の人の命令にすべて従えと言われてもなかなかすぐには受け入れられないし、とても苦痛だろうと思います。

篠塚さんがこの証言を通して伝えたいことは「戦争は絶対にしてはいけない。平和を壊してはいけない。」ということだと思います。これは当たり前のことのように、ものすごく難しいことです。口では何とでも言えますが、実際に今、戦争はなくなっていない。

では、戦争が起こらないためにはどうすれば良いのでしょうか。私は「自分の命を大切にするように、人の命も大切にする」ことが必要なのではないかと考えました。これも当たり前のようでとても難しいことです。自分が一番大切だというのはきっと誰でも同じです。それを分かった上で、他人の命について考えてみてください。同じ人間、同じ大切な命、失いたくないはずです。そのために今、私たちにできることは何でしょうか？私は命について家族や友だちと真剣に話し合い意見を出し合うことだと思います。それによって考えが深まり、より命の大切さを理解し、少しでも平和な世界を築いていきたいです。

2003 年生まれ、16 歳、純心女子高等学校 1 年（長崎）